

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	治療関連急性骨髄性白血病において原発悪性腫瘍に対する治療が同種移植成績に及ぼす影響の検討
	研究目的	日本造血細胞移植学会のデータベースに登録されている治療関連急性骨髄性白血病(t-AML)症例について、原発悪性腫瘍の詳細（癌腫、組織型、病期）と治療内容（抗がん剤の種類と投与回数、放射線療法の部位と線量）の二次調査を実施する。その結果を用いて、t-AML において原発悪性腫瘍およびその治療歴と、全生存率、非再発死亡、移植後合併症との関連を検討する。この結果により、t-AML 患者に対する同種移植療法の適正化や成績改善に寄与するエビデンスを創出できる。
	研究対象者	2011年1月から2018年12月までに当センター血液内科で同種造血幹細胞移植を受けた治療関連急性骨髄性白血病の患者さん。
	研究期間	西暦 2021年1月18日～西暦 2025年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	血液・腫瘍内科 部長 田中正嗣
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	血液・腫瘍内科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	福井大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科 新家 裕朗